

インターバンクの声（2016年12月5日）

毎月初めの金曜日に発表される米雇用統計だが、12月の米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げもほぼ決定的とあって、もはや市場で最も注目される相場材料の一つではなくなりつつあるとの声が少し前から聞こえ始めていた。

週末に発表された11月分の雇用統計は、非農業部門雇用者数が17万8千人増と、僅かながら市場予想を下回り、失業率は4.6%と9年ぶりの水準まで改善した。確かに発表直後の相場が以前のようにいっぺんに1円、2円も動くことはなかったが、それでも発表後の高値と安値の値幅は90銭ほどあり、そう簡単には米雇用統計の存在感が薄れることが無いことを証明した格好だ。

金曜日の結果から12月の利上げの可能性に変化はないものの、雇用者数増の勢いがなくなったことや平均賃金が市場予想ほど伸びなかったことで、期待感が増していた来年の利上げペースについて再び見方を修正する必要が出て来たようだ。

円相場がいったん114円台までドル買いが進んだ後、結局113円台前半まで調整が入ったのも、この利上げを含めた今後の見通しが不透明になったためだろう。まさか3度目の番狂わせはないと思うが、この後に判明するイタリアの国民投票の行方を不安視していたことも相場調整に繋がっていたようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。